

## 教育資料室だより

No.21 令和5年(2023).11.1

発行 桐生市教育資料室(西小学校内)

桐生市小曾根町1-9 電話・FAX 0277(43)3171

歩いて見つけて味わって

## ふるさと探訪 (2)

桐生市内文化施設とのコラボ企画

「百年前の桐生ってこんな感じ」その2です。前回は、市制施行に伴って建設され大正11年に竣工した市役所。現在の桐生第一高校の北東辺りにあった桐生図書館(昭和10年開館)。現在は桐生市指定文化財、近代化遺産として公開されている絹燃記念館を取り上げました。



← 書上左衛門邸 撮影年不明  
現在の書上左衛門邸は、江戸時代、桐生新町が開通されたときに開削された水路が本町通り西側にあることがわかる写真です。



時代が江戸から明治に変わり、桐生新町が山田郡桐生町に、役場も山田郡役所、桐生町役場へ、大正に入り桐生市役所へと変わっていきました。街並みも少しずつ変化し、日本風の木造建築から西洋風の木造建築、石造り、煉瓦造り、コンクリート造りの建築物も増えていきます。今回は「その2」として、建築物や街並みの変化を紹介して参ります。

参考・引用：「写真集桐生市80年(あかぎ出版)」

「きりゅう百景(株アズ)」 「きりふのしほり(川嶋伸行)」

「関根昇アルバム」(教育資料室蔵)



← 時代は移り花屋さんに(平成7年撮影)。今も営業しておられます。現在の姿はご自分の目で。



←明治22年5月に出版された「大日本博覧繪(石原徳太郎)」に掲載されている書上左衛門邸です。左上の写真では、通りに向かった正面の木造部分と土蔵が当時の面影を残しています。この頃の書上家は『買継王』とも称される大商家でした。店の前に水路があります。

出典:「明治の桐生」ファッションタウン桐生推進協議会フィールドワーク桐生プロジェクト



矢野商店 上の写真は昭和60年

右の店舗と下の煉瓦蔵は令和元年撮影  
下の絵の出典は 前ページ「明治の桐生」から



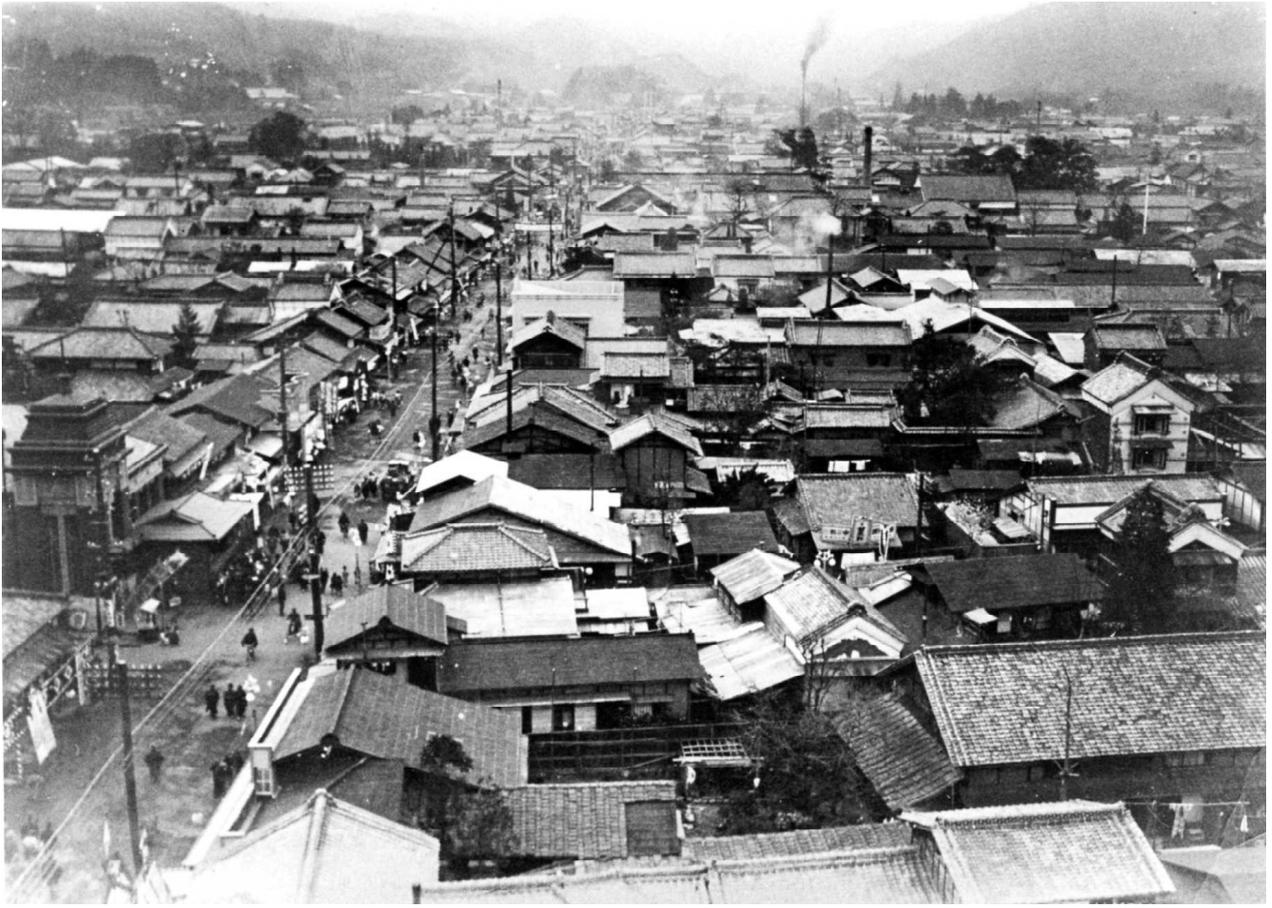
株式会社矢野の2代目が桐生新町に店舗を出したのは、寛延2年(1749)、江戸時代半ばに入る頃です。初代矢野久左衛門が近江国から来往した享保2年(1717)から数えると三百年以上も続く老舗です。  
参考:  
「矢野三百年のあゆみ 有鄰」



←大正時代の末広通り 今のガスプラザの辺りから西方向を見た写真。停車場通りと呼ばれていたようです。道路右側に見える大きな屋根は長福寺。道路拡幅により昭和30年代に宮本町に移転しています。

↓下の2枚は、盛大に提灯が飾られているので、大正天皇即位大典奉祝[大正4(1915)]のときとも思われますが、はっきりしません。左の写真は本町通りから天満宮方向を、右は本町6丁目方向を見ています。煉瓦造りの重厚な建物は、四十銀行本店(後の第一勧業銀行桐生支店)、昭和時代終盤に解体され、現在はガスプラザになっています。





上下とも大正時代の写真と思われます。上は天満宮方向を下は本町5丁目方向を写しています。通りの西側には電線、東側には電話線の電柱が立っています。桐生町に電話が開通したのは明治40年(1907)でした。上の写真の左中央下部に洒落た煉瓦造りの建物があります。四十銀行三丁目支店(大正8年建造)です。この建物は、昭和3年に桐生信用組合(後の桐生信用金庫)本店となり、昭和時代末期まで使われていました。



写真上部、通りの右側に小さく写るのが金善ビル、その手前が足利銀行桐生支店です。通りに面して店舗が並び、奥には住居や蔵が造られています。今も残る金善ビルは大正10~14年(1921~1925)頃の建設。足利銀行桐生支店は大正6年竣工。さらに遠方には、かすかに四十銀行(前ページ第一勧銀)も見えます。